

29年7月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
仕入動向	国産材製材品	6.3	△ 6.3	12.5
	外材製材品	12.5	△ 6.3	12.5
	構造用集成材	7.1	△ 7.1	21.4
消費動向	国産材製材品	12.5	0.0	12.5
	外材製材品	12.5	12.5	18.8
	構造用集成材	7.1	14.3	14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 8.3	△ 21.4	0.0
	外材製材品	△ 7.1	△ 21.4	0.0
	構造用集成材	△ 7.1	△ 14.3	7.1

・プレカット加工用部材の仕入動向は、国産材製材品、外材製材品及び構造用集成材とも7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。

・消費動向は、国産材製材品は7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。外材製材品及び構造用集成材は3カ月連続増加。

・在庫動向は、国産材製材品、外材製材品とも7月、8月の減少から9月は横ばいに。構造用集成材は7月、8月の減少から9月は増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
受注	18.8	12.5	18.8
加工	25.0	12.5	18.8
受注残	12.5	0.0	12.5

・プレカット工場の受注動向は、受注及び加工は3カ月連続増加。受注残は7月の増加が8月は横ばい、9月は再び増加に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・国産材製材品及び外材製材品ともに潤沢にあるものと考えており、価格も安定している。消費は注文に応じて順調。在庫は過剰ぎみの傾向にあり。
- ・この先数カ月の仕入は、安定的に入荷すると思われる。消費動向は、昨年のデータからみると8月は外材製材品、構造用集成材が増加すると思われる。国産材製材品はあまり変化なし。構造用集成材の在庫がやや多く、消費も多くないため増加気味。
- ・RW、EW桁が値上がりしている。

(受注動向)

- ・受注は横ばいなれど、加工・受注残は堅調。
- ・8月からそれなりの受注量になるとと思われる。